

平成30年度 水産業強化支援事業事後評価結果

		長崎県水産部水産経営課
政策目的	水産業経営の強化	
政策目標	経営構造改善目標	5
事業実施主体	豊玉町漁業協同組合	
実施地区名	対馬市豊玉町水崎地区	
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度
	平成30年度	令和6年度
交付金額	15,400,000円	
事業計画の内容	鮮度保持施設 製氷2.5t/日、貯氷4.0t/日	
評価	成果目標	漁業者1人当たり平均漁業所得●●●千円/年の向上を図る
	現状値 (A)	●●●●千円/年 (令和6年度末時点) 対目標値【=A/B×100】12%
	目標値 (B)	●●●●●千円/年 (令和6年度末)
	(1) 現状値の説明	<p>成果目標の達成状況について、算定根拠に用いたとしたクロマグロ養殖業、アカムツ延縄漁業、アナゴ籠漁業の全てにおいて水揚量が減少したため目標値を大幅に下回る結果となった。</p> <p>令和元年度の台風で出荷サイズの養殖マグロが被害を受けたため、出荷可能な養殖マグロが少なく、その影響がその後も続き、直近年においても出荷平均サイズが小さくなっている。その上に、近年の餌料高騰により、経費削減のために餌の投入量を減らしたことで、成長速度が遅くなり、出荷サイズが以前より小さくなったことから、魚価の低下に繋がったと考えられる。加えて燃油や輸送費、人件費など、様々な経費が高騰しているため、マグロ養殖業者については令和6年度は赤字決算となった。</p> <p>また、アカムツ延縄漁業の状況も非常に悪く、魚価においては通年高値で推移したものの、令和6年度は、漁獲量が前年比で半分に減少した令和5年度と比較しても3分の1以下の漁獲量であった。平成28年度と比較すると▲91%の漁獲量となり、大きく所得が減少することとなった。このことから生産意欲の低下と高齢化により廃業者も出てきている状況にある。</p> <p>アナゴ籠漁業においても、物価高で様々な経費が高騰する中、特に餌(イカ)の高騰は深刻な問題であり、魚価の上昇が経費の高騰に追いついておらず所得が減少となった。また、乗組員が不足する漁業者もおり操業に支障をきたす状況となってきている。</p>
	(2) 地域への経済効果(ハード事業のみ)	主に養殖クロマグロの出荷量減少とアカムツの水揚量減少が要因となり、運営計画上の製氷利用量は下回っているものの、当該施設は、豊玉町漁協水崎地区の漁業者・養殖業者の大半が活用するものとなっており、豊玉町水崎地区で水揚げされる水産物の鮮度保持・価格維持に貢献している。
(3) 所見	クロマグロ養殖業については、給餌価格が高騰しているにもかかわらず魚価が低下しており、非常に厳しい状況である。	
(4) 評価機関への意見等		
今後の改善方向等に関する分析	<p>クロマグロについては、所得減少の一番の要因が給餌価格の高騰であるため、現在はサバを中心としている餌を、サバよりも安価なイワシを混ぜることにより飼料代を押さえるなど、経費の削減に努めていく。</p> <p>アカムツについては、大幅に漁獲量が減少していることから、アカムツが釣れないときは、サバ漁などの現在行っていない新規漁法を導入し、所得の向上に繋げていく。</p> <p>また、アナゴ漁においては、一番の問題である餌代の高騰対策として、イカの代替となる餌の試作研究・試験を漁業者が中心となって実施しており、今後も餌代の削減に向け取り組んでいく。</p>	